

平成 24 年度入学式式辞

本日ここに集われた学部・大学院・特別専攻科への入学生の皆さん、おめでとうございます。

ご来賓の本学後援会の奥村会長はじめ副会長の皆さん、および列席の本学理事・副学長、学部長等とともに心からお祝いしたいと思います。

また、これまで皆さんを育て支えて来られたご家族の皆さんにあっては、この約20年間の社会の低迷の中、多くのご苦勞があったことと思われまゝ。改めてお祝いと敬意の気持ちを伝えたいと思います。

和歌山大学教職員、そして在學生は、入学生の皆さんを歓迎し、ともに学び、ともに今日から新たな人生を創りだすことを呼び掛けたいと思います。

さて、入学生の皆さんは、高校受験、大学受験という重圧から解放され、ほっと一息というところかと思いますが、すでに皆さんご存じのように、4年後に控える大学卒業後の進路・就職に関して厳しい状況が伝えられています。

先月3月19日の政府発表によれば、2010年大学及び専門学校卒業者のうち4分の1が3年以内に離職し、就職できなかった者を加えると実に2人に1人が無職か安定した職に就いていないということです。和歌山大学においては、これほどまでに深刻ではなく、9割以上が卒業時就職しています。ただ、数年で離職する人が少なからず存在することも事実です。

こうした数字が提示されると、ではどうしたらよいのかと、入学生の皆さんもご家族も大きな焦り、深い悩みを持たれるに違いありません。そして大学時代に何をすればいいのか、大学が何をしてくれるのかと問われるかと思ひます。しかし、ひとりの教育学者として、長く大学の在り方を考え、社会の在り方を考えてきた私ではありますが、こうした事態の中で安易なことは申し上げることはできません。

だからこそ、私が学長就任以来、和歌山大学の大きなスローガンにしております「和歌山大学は生涯あなたの人生を応援します」という言葉を、全教職員の決意としてお伝えしたいと思います。

まず一つ目には、皆さんが「大いに悩むこと」「悩みを語ること」を応援したいと思います。

今どのように学識があり経験があったとしても、未来を見通せるわけではあり



ません。厳しく、辛いことではありますが、未来への不安を避けず、正面から悩み、他者に伝えましょう。

私が学長就任直前、教育学部1年生の学生が相談に来ました。自分は第1希望の大学入試に失敗し、来年希望大学を再受験するつもりで入学したということでした。しかし和歌山大学の講義を受け始めると面白い、興味深い、どうしたらよいだらうかということでした。聞けば、歴史学、そして教育学の内容や教員に魅せられたと長い時間語りました。私は、悩むこと自体に価値があると話し、悩むことを励ましました。

そして1年後、彼とは書類上再会しました。それは奨学金を得てのフランス留学の許可願いでした。旅立つ直前彼に会いました。彼は私に相談に来た後、フランス語とフランスに関心を深め留学を希望するようになったということでした。彼は、しっかりと悩み、自分で答えを出したのです。

二つ目に、和歌山大学は、皆さんにこれまでに無い多様な経験の場を提供し、今まで考えなかった「問い」を持ち、人生を考えることを応援します。昨年度から、1年生をアジア、とくにタイに派遣するプログラムを始めました。今年2月から3月にかけて、約20人の彼女彼らが、約20日間タイの都市富裕層の家や厳しい経済環境にある農村でホームステイし、多民族多文化多宗教の社会を実感し、ラオ

ス・ミャンマーの国境の風景を経験しました。ある一人の学生は「行く前、タイは悪く言えばルーズな人々、ルーズな社会だと思っていた。真面目な性格の私には、自分には合わない国だ、やっぱり日本がいいと思うだろうと思っ



ていた。実際タイには、バスの時刻表はない、信号機はない、食べながら店番をする店員、日本では考えられない光景ばかり。でもタイを否定的に捉える感情が湧きあがってこなかった。それは自国と他国の違いに寛容になれたからだ。文化の違いを受け入れてそれを楽しむということの大切さを知ったからだ。その国を好きになるか嫌いになるかは、いかに異文化に対して寛容になれるかによるのだ。」と感想を書いています。彼女は、自分のこれまでの考えを問い直し、未来に向かう新しい自己を発見したのです。

そして、このような体験ができるのはタイ派遣プログラムだけではありません

ん。教育学部の学生には、和歌山のへき地にホームステイしながら教育実習を行うプログラムがあります。経済学部、システム工学部、観光学部の学生は、教員とともに和歌山の農山村に入り、地域づくりの現場で地域の人々の苦悩と闘いに接し、さらなる深い学びにチャレンジしています。

三つ目に、和歌山大学は、この4月より1、2年生の学習内容を改革し、図書館を交流と語り合い、そして学びの道場として改造し、皆さんが新しい学びへと進むことを応援します。詳しい内容については、本日のオリエンテーションで配布される「授業計画」（シラバスといいます）の冒頭にある天野副学長の呼びかけを読んで頂き、そして図書館に足を踏み入れてください。きっと、新しい出会い、新しい学びが発見できるでしょう。

最後に重ねて伝えます。和歌山大学は、「あなたの（悩み深い）人生を応援します」。悩むことは価値あることです。悩み方を知ること、これこそ厳しい時代、人生を生き抜く、唯一最強の方法なのです。和歌山大学で、大いに悩み、大いに学び、大きく成長して頂きたいと思います。

皆さん、和歌山大学への入学本当におめでとう。改めてお祝いの気持ちをお伝えし、歓迎の挨拶といたします。



2012年4月5日
和歌山大学長 山本健慈